# 答申「住民参画型学習事業の成果の確認と今後の展開について」（ポイント）

資料２別紙

## ポイント１ 住民参画型の学び

- 市民センターと地域住民がプロセスやアプローチを共有する。
- 住民のニーズを把握し、アイディアを活用する。
- 市民センターが、地域内の知識や技能を有効に活用し、人的リソースを結び付ける場となる。

## ポイント２ 世代間交流

- 異なる世代のニーズを考慮し、世代を交差させる機会を創出し、事業の枠を越えた展開を推進する。
- 大人世代が若者や子ども世代から学び、フラットな関係で学び合う場を提供する。
- 子育て世代が気軽に参加できる環境づくりや事業展開をする。

## ポイント３ 地域資源

- 地域資源を広くとらえ、歴史や文化、ヒト･コト･モノ･場などを地域資源として再評価する。
- 地域資源を発掘し、活用するプロセスを大切にする。
- 地域の特色を明確にし、魅力をアピールする。

## 持続可能性・つなぐ役割 ポイント4

- 住民主体の活動や自立に向けた支援を行う。
- 多様な主体の連携を促進し、人や団体がつながって事業が継続できる仕組み作りをサポートする。
- 事業の成果だけでなく、プロセスを重視し、長期的な視点を持つ。

## 情報（成果物）発信 ポイント5

- 異なる世代の利用者に合わせた情報発信の方法を工夫する。
- 情報発信を通じて多世代を巻き込み、デジタルと紙媒体を併用する。
- 市民のニーズを把握し、的確な情報を提供する。

## アフターコロナ ポイント6

- コロナ禍が残したものは、人々の学びの意欲の低下や人とのかかわり方の変化。
- 市民センターは新たな人材の発掘や育成、人々のつながりとネットワークづくりを推進する。
- 地域･学校･行政など様々な主体のつなぎ役となる。

※住民参画型学習事業とは、「若者社会参画型学習推進事業」（通称「若者事業」）、「住民参画・問題解決型学習推進事業」（通称「大人事業」）、「子ども参画型社会創造支援事業」（通称「子ども事業」）の３事業です。